

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン — 1 —

重点項目	学習活動（教科指導の充実）	
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と自主的学習習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路目標実現のため、また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を実現するために、生徒の実態に即した教科指導の充実・教育力の向上が求められている。 ・生徒の学力の向上を図るためには、自主的学習習慣の定着が不可欠であり、その能力を伸ばす教育の推進が必要である。また、生徒の知的好奇心、学習意欲、探究心を引き出し、自分が何に興味・関心があるかの認識や将来に対する展望を持たせられるように、教員自らが ICT 活用や観点別成績評価の導入など教育環境の変化に対応しながら、率先して研修することが求められている。 	
達成目標	① 互見授業の参観回数 1人3回以上 外部研修会等の参加回数 1人2回以上 ※オンライン研修を含む	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点(72.5%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・年間随時、互見授業を実施し、参観者の助言を踏まえて授業改善に努めるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。 ・外部の研修会や公開授業を随時案内するなど、参加を推奨する。参加者が研修内容を教科等で共有し、指導法の改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題等、学習への取り組みについて、生徒の自己評価を実施する。 ・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習意識を把握する。 ・学年を中心とし、生徒の実態に応じた課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。
達成度	① 互見授業の参観回数 ※()は昨年度 1人あたり 3.0回(3.6回) 1学期 2.1回(1.7回) 2学期 0.96回(1.9回) 外部研修の参加回数 ※()は昨年度 1人あたり 2.1回(1.9回)	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 ※()は昨年度 1学年 3.0点/4点満点(2.9点) 2学年 2.8点/4点満点(2.8点) 3学年 3.0点/4点満点(3.0点)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年で観点別評価が始まったため、1学期は1学年の授業を参観する回数が増えた。2学期は1学期の自身の取り組みや参観を踏まえ自身の授業改善に向けての準備等に時間を要したため参観回数が伸びなかったと考えられる。 ・今年度は評価や教育課程に関する研修が増えたものの、ICTに関する研修が減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も昨年度と大きな変化は見られなかった。1学年は2学期から取り組みが停滞する傾向があり、2学年は後半に取り組み状況が改善した。 ・今年度は2学期始めに面談週間を新たに設け、長期休業明けの生徒の心のケアや学習状況の実態把握を行った。 ・課題の内容や量は、生徒側から否定的な意見は少なく、実態に応じたものだと判断できる。
評 価	A	A
学校関係者の意見	先生方の努力が報われている。マスク越しでの授業には困難も感じただろうが、A評価は素晴らしい。1学年後半から2学年前半にかけての停滞期があるとのことだが、生徒目線で原因を分析すれば改善につながるのではないかと思う。	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業は自身の授業を客観的に見直す良い機会であり、授業改善には欠かせない取り組みであるため継続して実施していきたい。次年度はより多くの教員が観点別評価に関わるため、他教科間での互見授業も積極的に取り入れることで、授業改善につなげていきたい。また、徐々に新型コロナウイルスによる規制も緩和され、外部研修へ参加しやすい状況になってきているため積極的な研修参加を呼びかけていきたい。 ・生徒の学習への取り組み状況として、1学年後半から2学年前半にかけての停滞期をどのように解消していくかが例年の課題となっている。生徒の状況を把握し、機会を捉え適切な仕掛けを行っていくための工夫が必要である。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —2—

重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と学校生活への適応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・素直でおとなしい生徒が多く、平素からの挨拶が不得手な生徒が見られる。 ・自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が見られる。 ・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・コロナ禍の現状において、感染症対策の実践の徹底が必要である。 	
達成目標	① さわやかに挨拶しようとした生徒の割合 90%以上	② 心の相談日や教育相談の実施 年間 15 回前後 ③ ほぼ全員が、健康観察、手洗い、消毒など、感染症対策を実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・自治委員による働きかけ ・定期的（月 1 回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの働きかけ ・職員側からのさわやかな挨拶 ・学年や保健厚生部との連携を図り、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。 ・1月末に生徒にアンケート調査実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの必要な生徒を把握し、実施後にはカウンセラーと関係者が協議をする。カウンセラーや医師による講演会を実施する。 ・手洗い、消毒等による感染症対策の意識調査を実施する。また、調査を通して、生徒の意識を高める。
達 成 度	① 生徒全体 86% （1年 85% 2年 82% 3年 89%）	② 2月末までに年間 14 回実施の予定。 ③ 手洗い、消毒、換気などの感染症対策は、ほぼ全員の生徒が実施
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・服装指導やさわやか運動、全校集会などの機会に働きかけた。 ・さわやか運動では自治委員が横断幕を作成し、積極的挨拶をアピールした。 ・生徒一人ひとりに対して、職員からも積極的に笑顔で挨拶してもらうよう依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の相談は、2月末までに年間 14 回、計 44 時間を実施の予定である。今年度は、生徒・保護者共に相談者が多く、相談内容も多岐に亘り、当初の予定時間では不足し、追加で時間を要請した。 ・手洗い、消毒、換気などの感染症対策は、ほぼ全員の生徒が実施している。
評 価	B	A
学校関係者の意見	学校に来たときに、生徒が皆「こんにちは」と声をかけてくれ、とてもさわやかな印象を持った。手洗い、消毒、換気などの感染症対策は、風邪やインフルエンザ等の予防にも効果的なので、流行の時期には継続して行えばよい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度からはマスクなしの生活に戻る可能性が高いので、さわやかに元気が加わった挨拶が飛び交う学校を目指したい。 ・自治委員の活躍の場を広げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度から健康観察の入力は行わないが、今後も、生徒自身が体調管理に気を配るよう、呼び掛けていきたい。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —3—

重点項目	進路支援（進路目標の設定とその実現）	
重点課題	進路意識の高揚と、納得のいく進路選択の実現	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、主体的に考えることができない生徒がいる。 学期や学年の進行とともに進路意識を高められる指導と、3年生には受験に向けた適切な支援を行う必要がある。 	
達成目標	① 進路講話等による進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年年間2回以上	② 受験への取り組みに対する満足度 (卒業時：3年生対象) 満足：60%以上 不満：10%未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。 2・3年生に対し、大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話により、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育てる。 3月に、卒業した3年生が2年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接を通して生徒の進路希望を十分に把握し、受験校の選定や学習に対する助言・支援を行う。 入試動向や校内テスト・外部模試の分析結果を、学年会や進路検討会等で情報を共有し、面接や教科指導等に生かす。 教科や小論文の添削、面接指導等の個別指導を、全校体制で計画的に実施する。
達 成 度	① 1学年 2回 2学年 3回（3月に+1回予定） 3学年 2回	② 満足 61%（満足 26%、まあまあ満足 35%） 不満 12%（やや不満 11%、不満 1%）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 近年新型コロナウイルスの影響で実施できなかった講話が多かったが、本年度は予定通り実施することができた。特に大学の先生による模擬講義は4年ぶりに開催することができた。 1年生は8月末に社会人、9月に外部講師による2回、2年生は8月末に大学生、11月に大学の先生、1月に外部講師による3回、3年生は6月に外部講師、8月末に大学生による2回の講話等をそれぞれ実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 受験を振り返り満足とした生徒は61%と目標を達成したが、不満とした生徒が12%とやや上回った。 担任による個別面接を、最低5回（1・2学期各2回、共通テスト後1回）実施し、生徒の進路希望の把握に努め、様々な助言等を行った。 7月、12月、共通テスト後に進路検討会を実施し、生徒の進路希望の共有化を図るとともに、担任が生徒により適切な助言が行えるようにアイデアを出し合った。 生徒の進路目標実現のため、全教員が分担して個別添削指導（教科、小論文）や面接指導等を実施している。
評 価	A	B
学校関係者の意見	1年生に「職業人が語る会」を実施しているのは大変良い。2, 3年生にも継続して聴かせた方が良いと思う。今後増えるであろう推薦入試を希望するならば、1年時からの成績がとても重要だと伝えれば、1年後半の学習の停滞解消につながるのではないかと。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 本校では一般選抜による受験が中心だが、学校推薦型選抜、総合型選抜による受験が全国的には増加しており、本校でも今後希望する生徒が増加すると予想される。多様な選抜方法への対応、特にこれらの選抜を受験する生徒の個別指導をどのように行うべきか、検討が必要である。 大学生による講話は生徒に好評だが、近年インターンシップなどの影響で学生講師の確保が困難になっている。講師を確実に確保する方法を模索したい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 委員会活動の活性化と生徒の読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等は困難であるので、コロナ対策を講じて行える活動を考える必要がある。 ・多くの生徒が図書館を学習の場として活用している。また、学年との連携による学級文庫の設置やF Tでの読書時間の導入などで、貸し出し数は順調に伸びている。 ・委員会活動は、生徒が主体的に動くために、委員会活動の時間確保を図った結果、充実した試み（図書館だよりの内容刷新、コロナ禍における館内展示の工夫など）を実施することが出来た。 	
達成目標	① ・コロナ対策を講じて実施したボランティア活動の回数 5回以上 ・“ボランティア活動に参加してよかった”割合 80%以上	② 生徒の主体的な委員会活動による生徒の読書量（全校生徒の年間貸出総数）の向上 ＊参考R 3 総貸出数 868 冊
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会を中心に、地域施設訪問に代わる新たな活動を考え、コロナ禍でもできることを実施する。 ・全校生徒からの参加を募り、参加後の意識調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会での話し合いをより充実させ、コロナで実施できなかった委員会活動を再開するための準備を計画的に進めるとともに、生徒が読書に親しむ機会を設ける。 ・図書部内での話し合いと連携をより綿密に行い業務内容の改善に努める。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を講じて実施したボランティア活動の回数 6回 ・“ボランティアに活動に参加してよかった”割合 82.6% 	②年間図書貸し出し数は、1月末現在 1133 冊 ＊下記参考データ参照 <参考>過年度の1月末貸し出し合計数 R3 774 冊、R2 701 冊、R1・H31/661 冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動（学校単独） 通学路や学校周辺の清掃活動を実施。 ・募金活動 学校祭で赤い羽根共同募金を呼びかけ、集まったお金を団体へ送金した。 ・ベルマーク収集 集まったベルマークを集計し、ボール等に換え、ひばり園に寄付する予定。 ・エコキャップ収集 ペットボトルキャップを洗浄、選別し、業者へキャップ 16,770 個を寄付した。 ・つくりもんまつりへの参加、清掃 美術部は作品制作、E S S 部は案内、華道部は華展、清掃には有志が参加した。 ・高岡聴覚総合支援学校訪問演奏会 3年ぶりに縮小した形で演奏+ダンスで交流を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション（4月） ・図書店頭購入（6月、11月） ・読書感想文コンクール（夏期） ・学校祭（9月）→恒例の古本市「来(らい)ぶらり」に代わり、葉づくりとクイズラリーを実施 ・読書週間（10月、1月） ・教養講座（11月） ・読み聞かせボランティア 福岡ひばり園にて（12月） ・読書会（1月） <p>＊各行事を通して、読書の良さを知り、図書に親しむ態度の育成を図った。</p> <p>＊朝夕の開館時間延長は継続しており、図書館の学習室としての利用は多い。</p>
評 価	A	A
学校関係者の意見	ボランティアや地域の催し等、校外行事への参加は、様々な人と関われる意味でよい機会だ。今後も継続して行ってほしい。図書の貸し出し数が飛躍的に増えているのが素晴らしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・（ボランティア）つくりもんまつりなど復活した活動もあるので、今後も対策をしつつ、時期や状況を見ながら他の交流活動も再開できるよう、並行して実行していきたい。 	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

